

熱帯の有用材 (26)

緒 方 健

マコレ (Makoré) 学名 : *Tieghemella heckelii* Pierre ex A. Chev.
(Syn. : *Dumoria heckelii* A. Chev. ;
Mimusops heckelii (A. Chev.) Hutch.
et Dalz.) (アカテツ科)

マコレはシエラレオネからナイジェリアにいたる熱帯西アフリカの降雨林に分布する樹木で、コートディヴォアールからガーナにかけて最も多くみられる。コートディヴォアールなどで用いられているマコレの名が商業名としても一般的であるが、イギリスやアメリカの市場では材の外観の類似から Cherry Mahogany や African Cherry の名称もときに用いられることがある。しかしもちろん分類学的にはサクラ (Cherry, バラ科) やマホガニー (センダン科) とは無縁である。このほか地域名としては、Dumori および Butusu (コートディヴォアール), Baku (ガーナ), Aganokwe (ナイジェリア) などがある。

マコレの学名としては *Dumoria heckelii* もしばしば用いられるが、*Dumoria* = *Tieghemella* で、命名規約から *Tieghemella* が正しいとされる。また *Tieghemella* を独立の属と考えず *Mimusops* に含める場合は、*Mimusops heckelii* も用いられる。著名者は *T. heckelii* (A. Chev.) Roberty が最も優先権があるという説もある。

樹木の形状 : 典型的な熱帯降雨林の樹木で、樹高 50 (～60) m, 枝下高 30 m, 直径 2 m に達する。樹幹は通直、円筒形で、老木では樹幹基部に大きな板根が発達する。樹皮は暗灰色～黒灰色 (林外に生育するときは灰色) で、縦に深く割れる。樹皮の切り口は赤色～桃色で、アカテツ科の特徴として、切り口から粘性の乳液が滲みでる。葉は常緑、単葉で互生し、小枝の先にかたまってつく。葉身は長さ 6～15 cm, 幅 2～6.5 cm, 基部楔形、狭楕円形～倒卵形、全縁でやや波うつ。葉柄は長さ 1.5～4 cm。花は両性花で、1.5～2.5 cm の花柄をもち、葉腋に 1～4 個つく。萼片は長さ 3～5 mm の卵円形で、4 個ずつが 2 列に並ぶ。花冠は淡黄色で 8 中裂し、径 8～10 mm。雄ずい 8, 花糸は長さ約 1 mm。果実は長さ 8～10 cm, 径 5～8 cm の卵形の液果で、黄色に熟し、中に 1～3 個の種子がある。種子は長さ (5～) 6～7.5 cm, 径 3～4 cm の卵形で、硬い種皮をもち、種皮の面の約 2/3 は滑らかだが、他の 1/3 の面にはしわがある。種子からは良好な食用油脂が得られる。

結実はかなり豊富だが、種子が大きいので 1 kg 当たり 30 個ほどしかない。また発芽力は種子の成熟後 2 週間ほどで急速に衰える。稚樹の成長は遅いが、耐陰性は高い。象が果肉を好むので、天然林ではそれが重い種子の散布を助けているといわれる。しかし一般的に象が少なくなってきたことや、天然林自体がなくなりつつあるので、天

OGATA, Ken : Useful Timbers in the Tropics (26) Makoré
農林水産省森林総合研究所

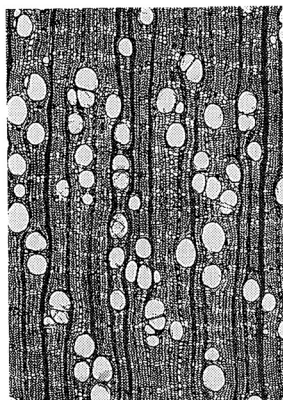


写真-1 *T. heckelii*
木口面(16×)

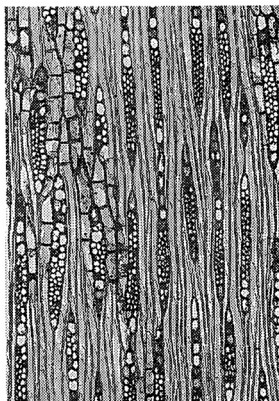


写真-2 同
板目面(40×)

然更新が危機に瀕している。

木材の特徴：心材は桃褐色～赤褐色でしだいに暗色を帯び、辺材は幅約 5 cm、淡桃灰色で、心材との境は明瞭である。やや光沢がある。肌目はやや精、木理は通直～やや交錯する。気乾比重は 0.61～0.77 (～ 0.89), 平均 0.67 で、重さ中庸～やや重硬。

道管は孤立するものと 2～4 (～6) 個複合するものからなり、後者がやや多い。放射方向に斜めに配列するのが特徴的でルーペでも認められる。孤立管孔の最大径は 180～220 μm 。道管の穿孔は単穿孔。道管相互壁孔は交互壁孔で、径 9～10 μm 。道管放射組織間壁孔は円形～線形で大きい。放射組織は異性 II (～I) 型、1～3 (～4) 列、多くは 2～3 列で、最大高は 1,000～1,400 μm 。個体によっては層階状配列の傾向があり、あいまいなリップマークが現れる。軸方向柔組織は 0.2～0.3 mm の間隔の規則的な細い带状で、ルーペでも明瞭に認められる。放射組織にシリカを含むが、細胞内の着色物質が多いためわかりにくい。結晶は含まない。

木材の加工性としては、乾燥はそれほど困難ではなく、乾燥後の寸法安定性は高い。強度は比重相当地かなり大きい。耐久性は高く、心材は菌、昆虫、フナクイムシに犯されにくい。心材への防腐剤の注入は困難だが、ふつうそれを必要としない。切削性はシリカを含むため工具の刃が摩耗しやすいが、それを防げば良好な仕上がりが得られる。釘打ち性は材の割れに注意が必要である。接着性は良好。アカテツ科の樹木でサポニンを含むので、製材粉が鼻やのどの粘膜を刺激する。

マコレはひじょうに美しく、加工性、強度などもすぐれた木材で、高級家具、装飾用屋内造作材、床板などとしてマホガニーにも比較される広い用途がある。

Tieghemella 属にはもう 1 種 *T. africana* Pierre (*Dumoria africana* A. Chev.; *Mimusops africana* (A. Chev.) H. Lecomte) がカメルーンからコンゴにかけての熱帯降雨林に分布し、一般名 Douka の名で知られるが、材はマコレとほとんど区別がつかず、同様に扱われることが多い。またナイジェリアからコンゴにある *Moabi*: *Bailonella toxisperma* Pierre (*Mimusops djave* Engl.) も同様の良材として知られる。